



であなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2026年4月
No. 7 2
JA秋田おばこ

苗は寒さには意外と強い

焼かないように

こまめなハウス開閉を

出芽後の管理

育苗ハウスの開閉へハウス内と外気の温度差が小さい早朝に行います。かん水も水温と床土の温度が同じになる早朝に、苗の大きさ、その日の天候に合わせたかん水量で行います。苗が小さいうちは水は多く必要ありません。過湿状態になると病気が発生しやすくなります。

近年は、過保護のあまり苗を焼いてしまった事例が多くなっています。出芽直後の苗は低温よりも高温に弱いです。日の出直後のひと時は寒くても、ハウス開度を大きくして苗を焼かないようにしてください。

異常気象に負けないためにも「根域確保」

耕起は固く締まった土をほぐし、根が張っていきやすい根域を確保するために行います。水稻の耕起では碎土率を上げ、土を細かくしすぎる必要はなく、おおきめの土塊が残っていても構いません。土塊があれば隙間に酸素が供給されて根が入り込みやすくなります。

一般的に耕深は12cm程度ですが、機械作業性と根張りの両立を考えると、15cmを目標とします。できなくても現状の耕深からプラス1cm深く起こして根域を確保します。根張りが良いと、高温下でも生育、登熟を維持できます。



ゴロゴロ耕起で 根っこ元気!



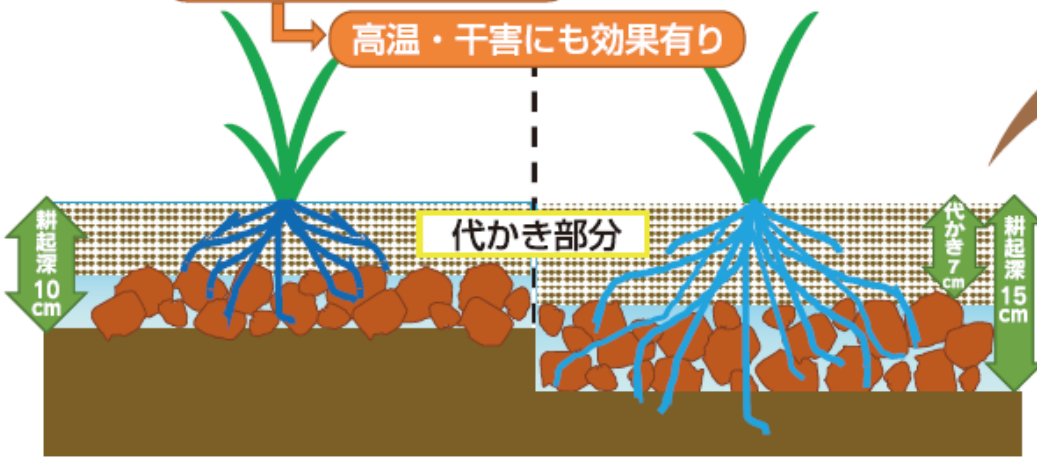
耕深が違くと根域が違う

根が吸収できるチツが増える

高温・干害にも効果有り



代かきは、下の土塊を残すイメージで行います



耕深 15cm を意識し、根域を広げよう

根域拡大のため深く耕起することは、プラスになることもありますが、下層土の不良土が混入することや、肥効の持続により過剰生育になるなど、マイナスの面もあるので、土壌タイプを考慮して耕起する必要があります。

ただやればいって ちんじゃないよ

